しものせき市民活動センター　市民活動取材／取材票

取材先	下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」		
企画名	下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」２０周年記念講演会 「認知症になっても幸せですが、何か？」		
取材日	２０２３年６月２５日(日)天候［ 曇り ］ ［ １３：００～１４：３０ ］	取材地	しものせき市民活動センター 大会議室

レポート

下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」は、認知症の人とその家族を支援するとともに、地域社会において認知症を正しく理解してもらうことを目的に活動されています。

高玉代表にお話を伺ったところ、「ひとりで悩まないで、一緒に考えてみませんか。」を合言葉に、認知症の介護をしてこられた方々が、ご自身の体験をもとに、現在介護をされている方々の悩みを聴くことで、より相手の気持ちに寄り添った相談支援ができるとのことです。

今回は、会の創立２０周年を記念した講演会で、講師は、ご自身が認知症でもある大分県認知症ピアサポーターの戸上 守氏です。戸上氏は、地方公務員のお仕事をされていましたが、５６歳（現在６２歳）くらいからもの忘れの症状と体調不良により退職。現在は、大分市にある「なでしこガーデンデイサービス」に通い、週に１回運輸関係の仕事もしながら、認知症ご本人やご家族の相談に応じておられます。

講演では、ピアサポート活動（※）やコピー用紙の配達業務、畑仕事や地域の学生とのソフトボールの試合など、さまざまな活動が紹介され、一緒に来られた「なでしこガーデン」の吉川社長が、エピソードの補足をされるやり取りもあり、笑いの起こる和やかな雰囲気の講演会となりました。

「失敗しながらでも、毎日やりたい事に挑戦出来ている」と語る戸上氏は生き生きとされていて、また、その環境をサポートされている吉川社長との出会いを「幸運だった」と言えるお二人のような関係がもっともっと増えていけば、認知症になっても暮らしやすい社会になると感じました。

戸上氏の「認知症は怖い病気ではありません」というメッセージが、そう思えた今回の取材でした。

※ピアサポート活動：認知症の診断を受けた当事者であるピアサポーターが、自らの体験談や考えを話す事で、それを聞く認知症の診断を受けたご本人やご家族、家から出ずに引きこもってしまった認知症の方等の不安を軽くし、前に向かって生きていくお手伝いをする活動。

状況写真

講師の戸上氏

講演会の様子。参加者約30名。小さなお子さん連れのご家族も参加。

「キャッチボールの会」の高玉代表

講演会の前に行なわれた懇親会の様子

懇親会の時の戸上氏（左）と吉川社長（右）